

94.6.14 No.4008



日刊 労千葉

六月九日、JR貨物関東支社は、
九四年度経営計画を提案した。

JR貨物は、昨年度二七億円の赤字を計上するけど、今秋(一二月)組「ダイ改」で臨むとすでに表明して、その四日といわれる)ダイ改を「白紙化」する。今年度の経営計画は、その先取りになるもので、具体策はダ組の、「効率化の推進」に大きなウエートを置いたものとなっている。当

「初心にかえつて、体质改革に取り組もう」と表題に掲げ、その目標として、

一、収益力の強化、二、効率化の推進、三、輸送の安全の確保、四、組職場の活性化、人材の育成、活用、五、サービス改善と技術開発の五点を掲げている。

提案に対する組合側とのやりとりは以下の通りとなっている。

組 読み上げて提案

効率化の項目がダイ改になだれこむのか。

基本的考え方はダイ改に合わせる。具体的にはまだ草案で業務委託などあるので年度になるとあるものもある。

一二・四白紙ダイ改の中身はいつ出るのか。

八九月に概要提案になるのではないか。時短に決着がつかないと中身が出てこない。

今秋大合理化 6/9 貨物関東支社

経営計画を提案

社としては検修は今の所採らない。

数年もすると検修で技術を持ついる人がいなくなる、これは会社にとつても大きな損失であると思うがどうか。五

才で出向に出することはせず

能力を活かせる場を設けて、

活用を考えはどうか。

技術力が流失していることは認識している。これからは専門的教育などは部外の講師をたのむこともある。

このことは、分割・民営化の前から言い続けていたことである。

また、事業計画で関東支社の車扱が▲七億円となつてゐるが、どういうことか。

車扱からコンテナにするので効率化の推進運動だけではどうしようもない。JR化の矛盾が貨物に出ている。例えば、JR東四月一日施行の代用閑そくを施行しない区間の変更が貨物現場には四月二〇日ごろ掲示になつて出す状況にあることなど安全輸送の面から見ても、この矛盾は放置できない。貨物が抱えている問題点を深刻に捉えるべきだ。

要員不増の時短で、今年も

要員合理化に向かうことは納



サラリーマン必読

事務局長の岩井章(現在は國労顧問)と動労千葉委員長の中野洋が長時間話し合つた記録である。

岩井は言つた。

「私が一番注目しているのは、職場において労働者の間の、労働者仲間同士の競争をいかにして防ぐか」といふと、このところは今までわれわれの運動では、ほとんど手がついていないんだ」

中野が言つた。

「労働者が首を切られて、徹底的に痛め付けられているにもかかわらず、それを否定するという労働運動といふのは、本質的に成り立たない。労働者が労働組合を作つて資本とたたかうといつたら、やっぱりマルクス主義しかないのである。だから僕はマルクス主義を強くなれるのは断固たたかう労働組合に団結した時代は、というのが2人の考え方だ。(社会批評社 164)

断固たたかう労働組合を…

「日刊ゲンダイ」6/13付で紹介!!
岩井章・中野洋対談本
「大量失業時代の労働運動」

「日刊ゲンダイ」6/13付で紹介!!
岩井章・中野洋対談本
「大量失業時代の労働運動」

出る本
ゲンダイ
6/13

景気はどうやら回復に向かつたという。だが、サラリーマンの置かれている状況は依然として厳しい。
かつて、こうした困難の際にサラリーマンは労働組合を頼りにした。しかし、このままでは、組織もストライキをして守ってくれた。だが、連合として組織は粘り強い法

リストラ、リエンジニアリング……言葉はどんなに延闊争もストライキをして守ってくれた。

岩井章・中野洋対談「大量失業時代の労働運動」

6・19 全国集会に集まつ
と と 6月19日(日)正午
ところ 渋谷・宮下公園
指定列車
千ハ 指定列車
10時35分発